

風水害に備える

風水害の特徴

風水害は、主に台風が原因であり、その雨風は、中心に向かって吹く風の向きと、その周りの風の向きの関係から、進行方向の右側の方が強くなるといわれています。

また、台風が前線を刺激することによって、広い範囲に大量の雨を降らせることもありますが、台風が離れていても注意が必要です。



風水害による被害

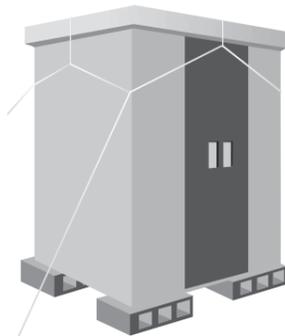
風水害による被害として主に考えられるのは、河川や排水溝などの増水による浸水被害や、大雨により土の中の水分量が増加することによるがけ崩れなどの土砂災害があります。

台風による雨風は予測可能

突発的に発生する集中豪雨の予測は難しいですが、台風による雨風は予測することが可能です。テレビやスマートフォンなどを利用して最新の情報を入手することを心がけ、早めに対策をとるようにしましょう。

家庭でできること

- 大雨や強風が予想される場合には、雨戸を閉め、窓はしっかりと鍵をかけるようにしましょう。
- 飛来物で窓ガラスが割れても、破片が飛び散らないようにカーテンを閉めておきましょう。
- 停電に備え、懐中電灯や携帯ラジオなどを身近な場所に用意しておきましょう。
- 風で飛ばされそうなものは、飛ばないように固定するか、家の中に入れておきましょう。



※大雨や強風の中での外出は非常に危険です。畑や側溝の確認は事前に行い、河川の状況を見に行くなどの行動は避けましょう。また、夜間に雨風が強まる予報の場合は、明るいうちに安全な場所へ避難しましょう。

地震に備える

想定される地震と被害

地震の種類

本市で想定される地震は主に2種類あり、一つが3連動地震（東海地震・東南海地震・南海地震が連動して起こるもの）、もう一つが中央構造線断層帯による地震です。本市における想定震度は3連動地震では最大震度6弱、中央構造線断層帯による地震では最大震度7となっています。

想定される被害

地震発生時には、窓ガラスの破損、家具の転倒、家屋の損壊や最悪の場合には家屋の倒壊も考えられます。これらは地震発生時の死亡・負傷の原因として大きな割合を占めるものです。

被害軽減のための対策

次のような対策をすることで地震による被害を軽減することができます。

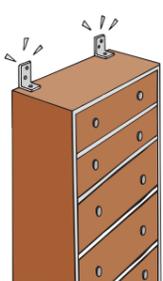
- ガラス飛散防止フィルムを貼る。
- 金具や突っ張り棒などで家具を固定する。
- ※これらの商品はホームセンターなどで購入することができます。
- 家屋の耐震診断を受ける。
- ※耐震診断について、詳しくは建築住宅課（☎33-11115）へご相談ください。

橋本市家具転倒防止金具等取付事業をご利用ください

市では、家具転倒による被害を軽減するために、転倒防止金具を取り付ける作業が困難な家庭に対し、金具などの購入費および取付け作業費の一部を助成します。申請には書類の提出や条件の確認などが必要になります。詳しくはお問い合わせください。

問い合わせ

危機管理室 ☎33-6105



生活に及ぼす影響

発災後には電気やガス、水道といったライフラインの供給が停止してしまふ事も考えられます。家が無事であったとしても、水や食料、光源や火の確保をするための機材を備えておかなければ、その後の生活に大きな影響を及ぼします。



今年の台風第21号による被害を受けての対応

河川監視カメラの設置

今年の台風第21号において学文路の大谷川がはん濫し、周辺地域では深刻な被害を受けました。

これを受け、市民の皆さんが具体的に河川状況を把握し、早めに避難できるよう河川監視カメラを学文路小学校に設置しました。

この監視カメラは24時間稼働しており、動画撮影を行なっています。また、カメラ付近に赤外線LED投光器を設置し、夜間の映像も見ることができます。

その他、カメラの向きやズームなどを市役所から遠隔操作できるため、大谷川の状況を詳しく確認することができます。

監視カメラの映像はYouTubeで一般公開していますので市民の皆さんも確認することができます。



▲携帯電話用 二次元コード

排水ポンプ車の配備

台風などの影響で、本川（紀の川）の水位が上昇し、支川（大谷川など）側に排水不良が起り、支川がはん濫する恐れがあります。

そのような場合に、支川側に溜まった水を本川に排水することで浸水被害の拡大を抑え、同時に、避難に必要な時間を確保するために、排水ポンプ車を配備しました。



▲排水ポンプ車

非常持出品と備蓄品の準備

市では災害により避難所での生活を余儀なくされた人への備えとして飲料水や非常食を備蓄していますが、避難生活には一人ひとりが事前に考え、自分にあつた備えをしておくことが必要不可欠です。備えとしては、災害時にすぐ持ち出すための「非常持出品」と、災害から電気・ガス・水道が復旧するまでの数日間を支える「備蓄品」を分けて用意しましょう。

非常持出品(避難生活用)

いざという時に慌てずに済むように、事前に準備しておくことが大切です。非常持出品は、家族構成に応じたものを準備し、リュックサックなどに詰めて玄関など持ち出しやすい場所に置いておきましょう。

非常持出品の例

- 非常食、飲料水（3日分程度）
- 懐中電灯（予備の乾電池）
- 携帯ラジオ（予備の乾電池）
- 救急医薬品（常備薬やばんそうこうなど）
- 衣類（下着や上着、スリッパ、靴下など）
- タオル、衛生用品、生理用品
- 雨具、防寒具、ヘルメット

※これらの防災に関する商品は、スーパーやホームセンターなどで購入することができます。



備蓄品(自宅用)

災害発生後、救援物資がすぐに届くとは限りません。家庭での備えは1週間以上が望ましいといわれていますが、最低3日分は備えるようにしましょう。

備蓄品の目安

- 飲料水（1日1人3リットル）
- ※ペットボトルのほか、ポリ容器にも水を蓄えておくとう便利です。
- 食料7日分（ご飯や缶詰め）
- 燃料（カセットコンロ、ボンベ）
- トイレットペーパー
- マッチ、ろうそく、懐中電灯
- 寝袋

簡易トイレもあると安心です

断水が起った場合、自宅のトイレはもろろんのこと、避難所のトイレも自由に使えないといった問題が起りえます。ご家庭で簡易トイレなどを備えておきましょう。

備蓄の目安

一人当たり1日約5回×7日以上